

9-9			
主題	基本に立ち返り、全職員で実践するターミナルケア		
法人名・事業所名	社福) 多摩済生医療団 特別養護老人ホーム多摩済生園		
発表者(職種)	松尾友美(介護職員)、丸山真里子(介護職員)		
共同研究(実践)者	佐々木祐子(看護師)、鈴木幸子(栄養士)、富田亜未(理学療法士)		
電話	042-343-2291	FAX	042-342-2900
事業所紹介	当施設は昭和52年に東京小平市に開設され、現在、利用定員多床室棟94名・ユニット棟60名・ショートステイ9床、同敷地内に多摩済生病院、デイサービス、訪問介護、訪問看護、居宅介護、地域包括支援センター等を併設しています。理念=添う心		
<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>当施設は開設当時から、40年間ターミナルケアに取り組んできている。死生観の変化とともに、施設での自然な最期を希望する利用者、家族も増えてきており、こうした背景から、当施設のケアを今一度基本に立ち返り、全職員で、見直し、より深く丁寧に行っていく必要があった。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>当施設のこれまでの歴史を基盤とし、全職員が関わる独自のケアを一から作り直したいと考えた。また、多職種が連携して行う事で、ケアに対する意識や技術が更に向上する事を目的とした。</p> <p>《3. 具体的な取り組みの内容》</p> <p>ターミナルケアを入所前から亡くなった後までと捉え、次のことに取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常のケア：人生歴の把握、信頼関係の構築、職員へ看取りケア意識アンケートを基に再研修の実施 週一回以上のターミナルケアカンファレンス実施、利用者・家族の意向実現(終末期帰宅支援事例等) ・エンゼルケア：動画マニュアル作成、施設内実践勉強会の実施、外部講師による講習会 ・グリーフケア：多職種でケア振り返り、グリーフカード更新、供花・通夜・告別式参列、慰霊祭 <p>《4. 取り組みの結果》</p> <p>日々の関わりから、人生歴を把握し、多職種で定期的なターミナルカンファレンスを開催する事により、家族と職員の不安軽減とケアの方向性が統一された。また、心を込めたエンゼルケア、家族に合わせたグリーフケア等、最期まで本人と家族に寄り添うターミナルケアが当施設独自のものとなっている。</p> <p>《5. 考察、まとめ》</p> <p>開設当時から取り組んできたケアが、施設内勉強会や外部講習会、全体会議での多職種の意見交換の充実によって、これまで以上の穏やかで自然な看取りに繋がっている。</p> <p>《6. 倫理的配慮に関する事項》</p> <p>なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。</p> <p>《7. 参考文献》</p> <p>「認知症・超高齢者の看取りケア実践」(2016年)島田千穂/伊藤美緒 日総研</p> <p>《8. 提案と発信》</p> <p>当施設では、委員会を軸とした時代に沿った方法を定期的に発信している。職員それぞれの意見を取り入れながら進めていく事で、ケアの質の向上や統一にも繋がっていくと考えている。</p>			